

## 【第128回対策本部会議】 4月1日

健康福祉部長／この1週間の感染者数は、前週比約1.6倍と増加傾向にある。若い世代の感染者が多く、高齢者が比較的少ないので、病床使用率は抑えられている。

病床使用率は22.2%、うち中等症者用の病床使用率が8.0%、重症者はいない。ホテル使用率は43.3%、自宅療養者が1,847人。引き続き、重症化リスクが高い人に感染が広がらないよう注視する。

年度始めて異動や飲食の機会が増える。感染対策防止に努めてほしい。

オミクロン株の特性を踏まえ、保健所は積極的疫学調査を重点化している。症状がある人は、医療機関を受診してもらい、保健所での濃厚接触者のPCR検査は、同一世帯のハイリスク者に限っている。ご理解いただきたい。

新型コロナウイルス対応医療提供体制強化本部事務局長／「プロジェクトM」は、救急医療や通常医療環境を守りながら、新型コロナの症状に応じた治療療養を施している。医師が入院、またはホテルか自宅療養かどうかを判断している。

現在、病床は562床、ホテルは615室を確保。症状に応じて、適切な診療あるいは療養をしてもらっている。症状が良くなれば、病院から自宅へ。逆に、自宅やホテル療養で症状が悪化すれば、病院やホテルへ上り搬送を行ってきた。今後も、この体制を保つ。

知事／新年度の4月1日からコロナ対策を適切に行うため、対策本部会議を開いた。

コロナ対策の最重要事項は、医療体制の確保、救急医療や通常診療を守ること。そのために「プロジェクトM」がある。

オミクロン株の系統が、BA.2に置き換わろうとしている。オミクロン株は、これまでの変異株に比べ死亡率が低い。しかし、高齢者が感染すると命の危険にさらされることも多く、最大限警戒する。今後も状況に応じ、迅速に対応していく。

メンバーも新しくなった。ワクチンの接種率を全国トップクラスで牽引してもらった久保山健康福祉部長には、全体を見ていただく。現場の大変さが分かっている甲斐総務部長には、人的、予算的な手当ての面で尽力してほしい。医療統括監、政策統括監の2人は、政策と医療の現場をつなぎ、力を合わせて取り組んでほしい。

異動で人が入れ替わる時期に不測の事態が起こりやすい。気を引き締めて努めたい。

日々、変わらず現場で尽力してくださる医療現場、介護、福祉、保育所、教育現場の皆様方に心から感謝を申し上げます。オール佐賀・チーム佐賀で取り組みたい。

今年度も、誹謗中傷などは決して行わない、エールを送り合う佐賀県であり続けたい。